

第5章

養成のための研修

1 節 講師養成研修会の目的とさまざまな方法

1 項 講師養成研修会の目的

本プログラムを使用して教育を実践する人の職種は限定していません。プログラムは、学校教員以外の人たち、あるいは精神保健医療福祉の専門家ではない人たちも授業が行えるように構造化されています。しかし、実際に中学生とその保護者、学校教員を対象に授業を行うことは、簡単なことではありません。学校 MHL 教育プログラムの内容を読んだだけでは、実際に行われている授業のイメージがもちにくいと思います。さらに学校教員や保護者などから教育プログラムの目的や意義、教育効果について尋ねられた際に、わかりやすく説明することも想像以上に難しいものです。以上の理由から、私たちはプログラムの意義や目的を理解したうえで、効果的に活用することができるよう、講師養成研修会を開催する必要性があると考えました。講師養成研修会の目的を定義すると、以下の3つです。

- ① 中学生に MHL 教育を実施する意義や目的、教育効果の理解。
- ② 学校に提供する MHL 教育プログラムの内容と質の確保。
- ③ 学校 MHL 教育を推進する仲間を募る（第4章を参照）

2項 講師養成研修会の時期

私たちの場合、研修時期は、研修体制について試行錯誤する中で徐々に定まっていきました。現在の講師養成研修会は3ステップ方式としています。

ステップ1：学校MHL研究会の活動目的、教育プログラムの意義や目的、概要、教育効果の理解。

ステップ2：教育プログラムの模擬授業、参加者同士の意見交換、スタッフからの助言。

ステップ3：実際の授業の見学（ステップ1の後でも可能）

この方式に沿って、参加者が無理なくステップアップできるように検討した結果、研修会は年2回、第1回目を10月、第2回目を翌年2月に開催することとしました。研修日数は各1日、見学2回を含めると計4日以上です。

1回目の10月は、学校でMHL教育プログラムの実施が増えてくる時期でもあります。これまでの経験上、学校での授業実践は、学校カリキュラムや校内行事の都合上、例年7月および11月～3月に集中することが多いです。このため10月に研修会を設定しておくことで授業予定日のアナウンスがしやすく、見学希望者を募ることもできます。参加者にとっては、テンポよくステップ3へ進むことができます。

2月の研修会に関しては、10月の研修会でステップ1を受講した人が、途中で学校の授業見学を経て、授業へのイメージがもてたところで、授業実践練習としてステップ2を受講することができるように設定しました。ステップ2を受講した後に、年度内の授業を見学することも、もちろん可能です。このように、かなり試行錯誤と検討を重ねて、研修会を実施してきました。年2回の研修の場には毎回50名程度の方が参加され、その中でステップの2、3と進み、スタッフとしての活動につながった方は毎回1～2名程度です。

3項 講師養成研修会の内容と方法

ステップ1、ステップ2については、1日の研修会で実施しています。表1に、講師養成研修会のプログラム例を示します。なお、便宜的にステップ1をAコース、ステップ2をBコースと呼んでいます。

各ステップの内容について説明します。

1) ステップ1

研修会ではAコースと呼んでいます。内容は、表1に示した通り、講義形式が中心です。一看すると、講師養成研修とはかけ離れた内容が含まれているように思われるかもし

れません。しかし、1項でお伝えしたとおり、学校 MHL 教育という概念そのものが十分に浸透しているとはいえない日本において、まずは活動の理念を理解することが重要という考えのもと、このような内容としています。

講義形式が大半ですが、後半でグループワークを取り入れます。1年生プログラムまたは3年生プログラムで行われる寸劇の一部を参加者に演じてもらうことが多いです。参加者は、いきなり寸劇に取り組むのは恥ずかしく、「これが授業？」と戸惑うことと思います。しかし私たちが授業をする主な対象は中学生です。生徒の関心を引き、伝えたいメッセージをいかに効果的に届けるかを考えた時、寸劇のような形式が授業として有効であることを実体験してもらうために設けています。

2) ステップ2

研修会ではBコースと呼んでいます。ステップ2では参加者による模擬授業を行います。

だいたい研修の1～2週間前に、参加予定者に対してメールで、学校で採用される頻度の高い順に「1年生1時間目プログラム」「2年生プログラム」「3年生プログラム」につ

表1 学校 MHL 教育研究会における講師養成研修会のプログラムの一例

コース名	対象者	プログラム内容	研修担当	時間
Aコース	研修会に初めて参加する人	MHL プログラム総論 ・ MHL ってなに？ ・ 学校 MHL 研究会の活動状況および実績 ・ 学校 MHL 研究会の教育制度	看護師	15分
		諸外国における教育体制 ・ マインドマターズプログラム紹介 ・ フィンランドにおける MHL 教育の取り組み	看護師	20分
		日本の学校教育におけるメンタルヘルス教育について	家族 (元教員)	15分
		学校教育におけるメンタルヘルス支援制度の実際 ・ スクールカウンセリング制度 ・ スクールソーシャルワーク制度	臨床心理士 (スクールカウンセラー)	15分
		学校 MHL 研究会プログラムの紹介 ・ プログラム全体の紹介 ・ 教員向けプログラムの紹介 ・ 1年生プログラムの紹介	看護師 家族 看護師	25分 10分 20分
		学校 MHL 教育の実施効果性 ・ 現在までの教育実践状況と効果	大学教員	20分
		学校開拓の方法と現状	作業療法士	15分
		学校でのプログラム展開のコツ	看護師	10分
		Bコース	Aコース修了者	模擬授業 ・ 各地域に分かれて模擬授業を展開
Aコース/ Bコース	全参加者	学校 MHL 教育を考える会	主催者、講師全員	60分

いて模擬授業ができるよう、各自で練習しておいてほしい旨を連絡します。

研修会当日は、1つ以上の模擬授業に取り組んでもらい、参加者やスタッフからのアドバイスを受けます。模擬授業を行った参加者からは、実際に取り組んでみて抱いた疑問や意見が出され、プログラムをただ読んだだけでは掴みきれない授業実践の方法やコツを学ぶ場となっています。Bコースは本人の希望で何度でも繰り返し参加し、研修を受けることができるようにしています。

3) ステップ3

見学のできる学校の授業日程は直前まで決まらないことも多いため、研修会の日程には含めていません。研修会の当日あるいは研修会後に受講者に授業見学の日程を案内し、希望者がステップ3に取り組むという形式です。授業見学の回数は原則として2回以上、見学するプログラムは2種類以上としています。

見学者は、主にステップ1を受講した方を対象としていますが、どの地域でもコンスタントに授業が実施できている状況ではないことから、対象者に関する厳密な基準は設けていません。たとえば、学校MHL教育に関心のある人がいて、研修会の時期からも外れており、直近で授業の予定があるという場合には、研修会への参加よりも先に授業見学を案内することもあります。授業見学で学校でのプログラム実践を体感して、対象となる生徒を理解することと、自分自身のプログラム展開をイメージしてもらうことができます。

4項 研修会の運営

研修会を行うにあたって必要な準備は、主に以下の通りです。2項、3項で述べた内容とあわせて、研修会開催の参考としてください。研修内容や方法のほかは、一般的な研修会の運営と同様です。

- ① 日程と時間の決定。
- ② 場所の決定と予約。
- ③ 研修参加費の決定、受講証明書、領収書の準備。
- ④ 研修内容の検討、研修プログラム作成。
- ⑤ 研修担当スタッフの配置決定、研修資料の作成。
- ⑥ 案内用紙の作成と配布（スタッフの職場関係の知人、メーリングリストを通じた案内配布など）、参加者募集。
- ⑦ 研修会当日のプログラム、配布資料の準備、参加者名簿。
- ⑧ 運営担当スタッフによる会場準備（パソコン、プロジェクター、小道具などの持参、会場設営）。
- ⑨ 参加者全員への確認メールの送信（Bコース参加者には模擬授業に関する連絡メール）

5項 各地域での施設内研修の開催

研修会は、各地域のニーズにあわせて参加しやすい場所で行うこともあります。たとえばいつも研修会の企画が首都圏に偏っていれば、地方から研修会に参加したいと思っても交通費がかかり、時間もとられるため参加ができない場合があります。

そこで参加を希望される地域や施設がある場合には、スタッフが出向いて研修会を行うことがありました。各地域で行う研修会は地域固有の問題も共有されやすく、研修会のあとの連携が可能であり、スタッフも安定的に学校へ出かけて行けるなどの強みがあります。施設で行う場合にも同様です。また地域や施設ごとに行う研修会は、仮にプログラムを実施する学校の開拓ができない時期の、スタッフのモチベーション維持にも有効です。